

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第2回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第2回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第8回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第8回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第3回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第3回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第3回) ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第3回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第4回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第4回)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第5回) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第5回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第5回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第5回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第7回)

(4) 活用に当たったの 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第13回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第13回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第13回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第14回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第14回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第15回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第15回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第15回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第9回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第9回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第9回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第9回) ・観測データに含まれる誤差の扱い「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第9回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第10回) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第10回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第10回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第11回) ・データの図表表現(チャート化)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第11回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第11回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第11回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第11回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第12回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「数理・データサイエンス・AIリテラシー」(第12回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- AI・データサイエンスの必要性を説明できる。
- 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる。
- どのような思考方法でデータを扱うか説明できる。
- データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	5%	令和5年度予定	20%	令和6年度予定	35%
令和7年度予定	55%	令和8年度予定	75%	収容定員(名)	300

具体的な計画

本教育プログラムは、令和4年度の入学生から履修可能としている。そのため、履修者対象者は基本的に年次ごとの逐次増加を見込んでいるが、これに加え履修モデルを整備し、本教育プログラムを体系的に組み込むことで、さらなる履修者の増加を図る予定である。また、令和7年度以降に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)プラス」の申請を予定し、これに向けての履修者増を図る。年次ごとの履修者数の見込みは次のとおりとする。()内は履修率。)

令和5年度:60人(20%)
 令和6年度:105人(35%)
 令和7年度:165人(55%)
 令和8年度:225人(75%)

本学は入学時に情報ガイダンスを実施しており、本学の目指す「新しい時代の学びスタイル」について周知している。本教育プログラムについても、そうした対面的なガイダンスを活用し、同時に、LMSの連絡システムにて、履修を促す取り組みを行っていく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は令和4(2022)年度より各授業科目のレベルから科目群のレベルまでをとおして「何が学べるか、どのような力が身につくのか」を学生に明示する方針をとっている。本教育プログラム(「数理・データサイエンス・AIリテラシー」)は教養科目群に位置づけられ、「データサイエンス教育科目」として独自の位置を占めると同時に基礎科目「ICT活用実習」、専門科目「情報技術」、「情報化社会論」等と有機的な連関があることを学生に示している。また、ガイダンスではそれぞれの専門科目群と本教育プログラムがどのような学問的な繋がりがあのかを学生に示しながら適切な履修指導が行える体制をとっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

毎年4月に実施している新入生研修にて本教育プログラムが文部科学省「数理・データサイエンスAI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を予定していること、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事の場等で使いこなすために基礎的な素養を主体的に身に付けることを目的としていることを文書で示し、2年間の履修計画の中に位置づける意義の明確化に努めている。また、前年度履修済の先輩学生からの感想や学修成果を発表させる取り組みも履修ガイダンスにて行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムは、オンデマンド型授業で実施している。この履修形態のメリットは、開講時期の期間内であれば自分のペースで何度でも反復して学習することができることであるが、また同時に、教員のサポートとして個々の学生の学修状況に合わせた個別指導が行き渡りやすいことがあげられる。本学では同プログラムの担当として3名の教員を割り当て、学修進度の把握だけではなく個別の状況にも対応して指導・サポートができる体制をとっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムを受講する学生は、学修支援システム(LMS)を活用し専用のオンデマンド受講システムと併用して資料を視聴している。1回の授業は複数回のステップに区切られ、それぞれのステップでディスカッションとディベートを行うためのテキストフォーラムが準備されているので、ステップごとの学習状況を把握するとともに個別の質問を受け付けこれに対応できるようになっている。またいくつかの課題はグループワークとしても課されるので、授業時間内外を問わず学生間のディスカッションを促し、これに対する教員からの適切なグループ指導も可能な仕組みになっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

金沢星稜大学女子短期大学部自己点検・評価委員会

(責任者名) 大久保 英哲 (役職名) 委員長・学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>開講科目の履修登録状況および修得状況は、教務課に登録されている情報によって把握することができる。「数理・データサイエンス・AIリテラシー」科目についても、同様に教務課での把握を行うとともに、総合情報センターにおいても履修状況と単位修得状況を把握している。当科目はオンデマンド形式で開講されており、専用学習システム、本学LMS、動画配信システム、学務システムを活用しており、これらのシステム上で、履修者ごとに講義内容の進捗状況や課題やレポートに対する回答状況などの学習履歴を包括的に確認することが可能となっている。各授業クラス担当者はこれらの学習履歴を把握・分析し、課題の提出状況や小テストの成績を基に全受講者の学修状況の管理を行っている。また、これらの学修状況に関わる全体的な分析結果は、自己点検・評価委員会に報告され、プログラムの修得状況も含め、本学の数理・データサイエンス・AI教育を推進していくための課題の析出、改善に向けた審議を行っている。</p>
学修成果	<p>本学が導入している学修支援システム(LMS)および専用学習システムにおいて、本教育プログラムを構成する教材内の課題は自動採点され提出状況が確認することができる。開講科目の全15回の授業を7つのフェーズに区切り、学習内容と学習期間の目標を示すことで、オンデマンド形式においても受講者が円滑な学修を進めることができるようにしている。フェーズ毎に出される課題については、総評をフィードバックするとともに、受講者間でピアレビューを行い相互評価に資するように工夫している。受講後は授業評価アンケート調査を実施し、ポートフォリオから得られるデータを分析し学修成果の把握を行っている。そして、これらの結果は、総合情報センターの運営委員会に報告されるとともに、自己点検・評価委員会にて学修成果のさらなる向上に向けた施策の検討を行っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>自己点検・評価委員会にて実施している授業評価アンケートの項目にて「数理・データサイエンス・AIリテラシー」科目の理解についての学生評価と総合的な満足度について調査し、その回答を分析することによって学生の理解度を把握している。</p> <p>2022年度の学生への授業評価アンケートの結果からは、本教育プログラムの理解度はやや難しいという回答もあったが、7割以上の学生から「ほぼ理解できた」という回答を得る結果となり、自由記述からも、「オンデマンド授業で開講したこともあり、自分の好きなタイミングで受講することができ時間を有効活用して学ぶことができた」や「小テストが授業内容に沿った問題で理解を深めることができた」などのコメントも寄せられており、学生の満足度も高いことが窺える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>学修支援システム(LMS)にて「授業評価アンケート」の結果を公開し、閲覧可能としている。既修得者の受講結果を参照できるため、後輩等他の学生への推奨度を把握することができる。</p> <p>2022年度の学生への授業評価アンケートの結果からは、「受講当初、データリテラシーの難易度が高いと感じたが、オンデマンド授業によって振り返り動画を何度も見ることでより理解度は深まった。今後もオンデマンド授業での開講を望むという声が多数あがった。」などのコメントによって、後輩等他の学生への推奨度が高いと考えられる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムは全学部を対象とした完全オンデマンド形式の授業で開講しており、各学部のカリキュラムや時間割には依存せずに履修が可能である。履修対象となる1年次には特に新入時の履修ガイダンスで科目の説明を行い履修者増に努めている。学期ごとに履修者数、履修率を調査・分析し、その向上のための継続的な取り組みを行っている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムは令和4(2022)年度に開講し、現在までのところ、本教育プログラム修了者は在学中である。今後の取組みとして、キャリアセンターと連携しながら本教育プログラム修了者に対して、学修内容をどのように活用し、どのように社会で役立っているか等、個別にヒアリング調査を実施し、その結果を今後のプログラム内容の改善に役立てる予定である。令和5(2023)年度には、本教育プログラムの単位取得者にオープンバッジによる学習成果証明を発行することも検討中である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学は産学地域連携の機能強化を図っている(「金沢星稜大学産学地域連携ポリシー」の策定予定)。地域連携センターを中心として本教育プログラムによって得られた知的リソース(シーズ)と地域・自治体、企業等の課題(ニーズ)を効果的にマッチングさせた産学地域連携活動を積極的に推進する。これにより、産業界からのDX化推進の意見や要望を本教育プログラムに取り入れながら、双方に価値を生み出す「価値共創」を目指しているであろう。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本教育プログラムは、現代社会を取り巻く様々な問題を数理学の知識を使って解き明かし、解決していくための手法や考え方を身につけることを目標としている。身の回りの小さな問題から社会問題まで、その背後にあるデータを捉えて科学的・論理的に解析することで従来見えなかった社会現象を捉える力を身につけることで、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させようとしている。同時にこれらのデータを素早く扱うために必要となるAI(Artificial Intelligence)の活用手法や、それを支える周辺技術についても学ぶことで、その後の応用可能性も見通しながら学修を継続してける工夫を行っている。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>本教育プログラムでは、リテラシーレベルのモデルカリキュラムの範囲を網羅した学習教材を用いるだけでなく、担当教員2名が学生目線で教材の内容をふりかえる「ふりかえり動画」を副教材として視聴させ、学生自身のふりかえりや深化を促している。また、本学では令和3(2021)年度入学生からデジタル技術を活用してAI導入などの大きな社会変化にも対応できる人材の育成を目指し、「e生活文具(iPad)」として全員にタブレットを貸与している。学内の情報演習室で利用できるコンピュータ環境も充実しており、個別に所持するiPadの活用とあわせて、授業水準の維持と学修方法の最適化を図っている。</p>

金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」取組概要

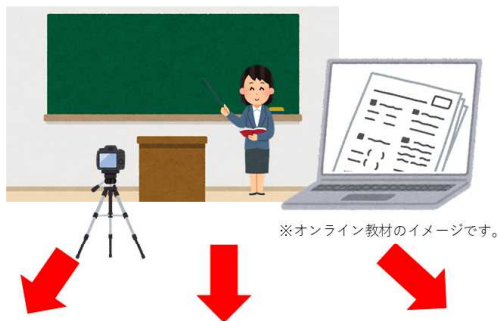
本学では2022年度より大学全学部および短期大学部の共通科目として「数理・データサイエンス・AIリテラシー」を開講しました。2023年度には文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に申請予定です。開講科目は全学部の1年次を対象としており、本学のすべての学生が、学術のみならず社会的にも活用できるデータサイエンスの知識を身に付け、問題解決のための手法や考え方を身につけることを目指しています。本教育プログラムを全学生が修了できるようにするために、開講科目はオンデマンド形式で実施しています。教育実践の具体的方法としても、対談形式の教材動画の配信や学生のコメントに対するフィードバックなど、受講生の学習意欲を喚起する工夫を取り組みを行っています。

2023年新入生向け受講案内（新入生研修煮で新入生全員に配布）

オンデマンド型授業のイメージ

教材や資料はすべてオンラインで公開！

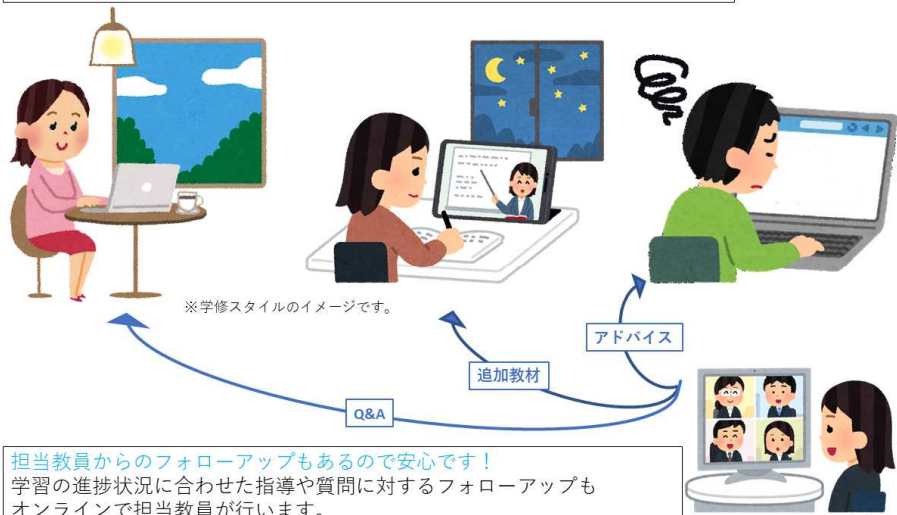
事前に収録された授業の説明動画や、理解度テストなどがオンラインで配信されます



※オンライン教材のイメージです。

好きな時間、好きな場所でまなびましょう！

開講時期の指定された期間内であれば、自分の空き時間に、自分のペースで、何度でも反復して学習することができます。



※学修スタイルのイメージです。

担当教員からのフォローアップもあるので安心です！

学習の進捗状況に合わせた指導や質問に対するフォローアップもオンラインで担当教員が行います。

オンデマンド型授業は、「遠隔授業」として扱います。
遠隔授業で取得した単位は、大学は60単位、短期大学部は30単位を上限として卒業に必要な単位とすることができます。（大学：学則第8条、短大：学則第10条）

大学・短大 1年次対象

2022年度「数理・データサイエンス・AIリテラシー」科目について

2022年度より、本学において「数理・データサイエンス・AIリテラシー」科目を新たに開講します。本科目は、文部科学省「数理・データサイエンスAI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を予定しております。
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事の場等で使いこなすために基礎的な素養を主体的に身に付けることを学修目標としています。

科目名（単位）

数理・データサイエンス・AIリテラシー（2単位）

授業目的

実社会の様々な分野におけるデータ・AIの活用についての現状やデータを扱う上での留意点をしっかり理解するとともに、専門分野も含めてデータを取り扱う基礎的能力を身に付けていきます。



授業実施方法：オンデマンド型授業（※裏面の授業イメージを参照）

ここで言うオンデマンド型（非同同期型）授業とは、動画教材や理解度テストなどをを用いた学修を、開講期間や指定された学修期間の中で、自分の空き時間に合わせて自由に進めることができる授業のことです。学修教材は理解度に合わせて繰り返し学ぶこともできます。

開講時期

前期：2022年 5月 9日（月）～ 7月15日（金）

後期：2022年10月17日（月）～ 12月23日（金）

履修方法

この科目は、履修するために特別な手続きは必要ありません。通常どおり履修登録してください。ただし、履修タームⅢ期【4月19日（火）】以降に履修を希望する場合は、5月6日（金）までを締切とし、教務課窓口にて申請を受付けます。
なお、履修の取消については、履修ターム時期と同じ日程となりますので、ご注意ください。

修了証明書の発行

この科目を修得した学生に対して、「デジタル修了証明書」を発行します。今後の就職活動に役立ててください。

1年次の皆さん！

この科目では、これからの社会で必要となる、データを読み解く力、説明する力、分析し活用する力を養うことができます。また、データを活用する際に用いるAIが社会でどのように使われているかの最新動向や活用されている分野についての知識を身に付けることができます。

オンデマンド型授業で行われるので、開講時期の期間内であれば、自分のペースで、何度でも反復して学習することができます。授業内の課題を通して、実際に自分でデータやグラフなどを作成する力も身に付きます。

みなさん、履修登録をして学修してみませんか？

数理・データサイエンス・AIリテラシー科目全体の進め方

①専用eラーニングシステムで教材閲覧、確認テスト合格

- 教材資料と教材動画を閲覧し、確認テストに合格すること
- 動画の閲覧状況や確認テストの達成度が評価対象となります

②LMS (dotCampus) での内容解説・補足動画教材の閲覧、コメント課題提出

- 動画 (CLEVAS) の閲覧とコメントの提出状況が評価対象です。



教材

以下質問に解答してください。

【 】に入る言葉で最も適しているものは何か？
【データサイエンスとは、社会にあらゆるデータから【 】を抽出し、分析することである。】

- 真実
- 本質
- 価値

【 】に入る言葉で最も適しているものは何か？
データサイエンティストには、「数学・統計」「コンピュータサイエンス」に加えて、「【 】」を行う能力が必須である。

確認テスト



内容解説・補足動画教材



コメント課題

受講生向け受講ガイダンス資料（一部抜粋）

はじめに

数理・データサイエンス・AIリテラシーによるこそ！

授業担当の二口と山本です
今年には佐々木先生も副担当に！



この授業は本学初のオンデマンド形式で開講される科目です。**通常の授業とは、進め方や学び方も異なります。**
とまどうところもあるかもしれませんが、みなさんが、最後までたのしく学べるようにがんばっていきますので、よろしくをお願いします。

1

授業の進行について

これで、準備は整いました。
それでは授業の進行について説明していきます。

この授業は**いつでも、どこでも**受講できます。

ただし、到達目標がないとなかなかやりづらい☹

…ということで

フェーズという単位でおおよその学習期間を定めています。



2

授業の進行について・フェーズって？

- ① 専用eラーニングシステムには全部で**15回**の学習教材（テキスト・動画・確認テスト）が準備されています。
- ② この授業では、**15回の学習教材を7つのフェーズに分けて**授業を進行します。それぞれのフェーズで、専用eラーニングシステム上の2~3回の学習教材を学習することになります。
- ③ 各フェーズの内容や**目標期日はdotCampusで順次公開**していきます。
- ④ 各フェーズの最後に「大学動画配信システム・CLEVAS」を使って、**そのフェーズの「ふりかえり動画」**を公開します。ふりかえり動画はdotCampusのタスクから視聴します。
- ⑤ 各フェーズでは、dotCampus上に専用eラーニングシステムを受講したことを前提とした、**アンケートやまとめ課題といった課題**を課します。



3

2023年前期のフェーズ進行予定と
専用eラーニング教材の対応は以下の通りです

	月	火	水	木	金	土	日
4月		3	4	5	6	7	8
		10	11	12	13	14	15
		17	18	19	20	21	22
		24	25	26	27	28	29
5月		1	2	3	4	5	6
		8	9	10	11	12	13
		15	16	17	18	19	20
		22	23	24	25	26	27
6月		29	30	31	1	2	3
		5	6	7	8	9	10
		12	13	14	15	16	17
		19	20	21	22	23	24
7月		26	27	28	29	30	1
		3	4	5	6	7	8
		10	11	12	13	14	15
		17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29	
	31	1	2	3	4	5	

ガイダンス
フェーズ1・教材：第1回
フェーズ2・教材：第2~3回
フェーズ3・教材：第4~5回
フェーズ4・教材：第6~8回
フェーズ5・教材：第9~10回
フェーズ6・教材：第11~12回
フェーズ7・教材：第13~15回

4

成績評価

この授業の成績評価基準は以下の通りです。

1. 専用eラーニングシステムで公開される「教材の学習」と「確認テストの達成」 ……**70%**
2. dotCampusで公開される「まとめ課題」と「フォーラムなどのグループワークへの参加度」 ……**30%**

なお、この授業における出席は、**eラーニングシステムおよびdotCampus上の教材の視聴状況と課題遂行状況を出席状況**とみなします。

5

質問について

授業に関する質問は

- ・ dotCampus内のフォーラム
- ・ 担当教員へのメール

で受付ます。

また、直接対話して質問したいという希望があれば
オフィスアワーやZoomなどでも受付ます。

わからないことがあったら、悩まず・気軽に相談してください。

6